

「失敗に終わる小羊の吟味」

マコ 12 : 28~34、マタ 22 : 41~46

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスの最後の1週間について学んでいる。
- ②きょうの出来事は、火曜日に起こったものである。
- ③イエスは、神の小羊として4つのグループの指導者たちから挑戦を受ける。
 - *イエスに挑戦した最初のグループは、祭司長とパリサイ人たちである。
 - *第2のグループは、パリサイ人とヘロデ党の者たちである。
 - *第3のグループは、サドカイ人たちである。
 - *第4は、ひとりの律法学者である。
- ④今回は、第4の挑戦とイエスからの挑戦の2つの部分を取り上げる。
- ⑤この2つの挑戦のテーマは、今日でも重要な意味を持っている。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 135 ひとりの律法学者の質問

マコ 12 : 28~34、マタ 22 : 34~40

§ 136 メシアの家系に関するイエスの質問

マコ 12 : 35~37、マタ 22 : 41~46、ルカ 20 : 41~44

2. アウトライン

〈ひとりの律法学者の質問〉

- (1) 律法学者の質問 (28 節)
- (2) イエスの回答 (29~31 節)
- (3) 結末 (32~34 節)

〈メシアの家系に関するイエスの質問〉

- (1) 質問① (41~42 節)
- (2) 質問② (43~45 節)
- (3) 結末 (46 節)

3. 結論 :

- (1) 隣人愛について
- (2) キリストの2性について

小羊の吟味から、律法の本質について真理を学ぶ。

I. ひとりの律法学者の質問

1. 律法学者の質問 (28 節)

Mar 12:28 律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答えられたのを知って、イエスに尋ねた。「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか。」

(1) ひとりの律法学者

- ①彼は、パリサイ人である。
- ②イエスがサドカイ人を論破したので、大いに感動した。
- ③彼には、敵対心や隠された動機はない。
- ④純粋な思いから、イエスに質問をしている。

(2) 質問内容

- ①モーセの律法が今回のテーマである。
- ②これは、律法学者たちの間で常に議論されてきたテーマである。
- ③伝統的に、モーセの律法には613の命令があるとされてきた。
*365の禁止命令、248の積極的命令
- ④613の命令は、重要な命令と軽い命令に分類される。
- ⑤すべての命令をひとつの命令に要約すると、どうなるか。
- ⑥以上が「すべての命令の中で、どれが一番たいせつですか」という質問の背景。

2. イエスの回答 (29~31 節)

(1) 29~30 節

Mar 12:29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。』

Mar 12:30 心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

- ①これは、申6:4~5の引用である。
「聞きなさい。イスラエル。【主】は私たちの神。【主】はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい」
- ②最初の「聞け」という言葉を取って、「シエマ」と呼ばれる箇所である。
- ③敬虔なユダヤ人たちは、朝と夕に、これを唱えていた。
- ④ユダヤ教の根幹をなす命令である。
- ⑤【主】とは、ヤハウェである。契約を守るお方、イスラエルの神である。

*ギリシア語では、「キュリオス」と訳されている。

- ⑥「【主】はただひとりである」とは、比類なき神という意味である。
- ⑦「あなたの神である主を愛せよ」は、意志を働かせよという命令である。
- ⑧それを補足するのが、「心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、」である。
- ⑨訳文の比較

「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして」(申6:5)

「心を尽くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして」(マタ12:30)

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして」(新共同訳)

「heart、soul、mind、strength」(KJV)

- ⑩イエスは、人間存在のすべてをかけて神を愛するように命じた。

(2) 31節

Mar 12:31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』この二つより大事な命令は、ほかにありません。」

- ①これは、レビ19:18の引用である。
「復讐してはならない。あなたの国の人々を恨んではならない。あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。わたしは【主】である」
- ②神への愛と隣人愛とは、密接に関係している。
- ③モーセの律法を要約すると、この2つの命令に収斂する。
- ④マタ22:40
「律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです」
- ⑤この2つの命令が実行できたなら、律法のすべてが実行できたことになる。
- ⑥この2つの命令は、十戒の中にはない。

3. 結末 (32~34節)

(1) 32~33節

Mar 12:32 そこで、この律法学者は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほかに、主はない』と言われたのは、まさにそのとおりです。」

Mar 12:33 また『心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように愛する』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれています。」

- ①彼は、イエスの回答に同意した。
- ②これは、霊的現実と儀式的清めの関係に悩む人への教えである。
- ③霊的現実こそ、より重要である。
- ④彼は、「神」という言葉を意図的に避けている。

(2) 34節

Mar 12:34 イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神の国から遠くない。」それから後は、だれもイエスにあえて尋ねる者がなかった。

- ①この律法学者は、イエスに対して心が開かれている。
- ②その後彼が救われたかどうかは、分からない。
- ③4つのグループによる小羊の吟味は終わった。

II. メシアの家系に関するイエスの質問

1. イエスの質問① (41~42節)

Mat 22:41 パリサイ人たちが集まっているときに、イエスは彼らに尋ねて言われた。

Mat 22:42 「あなたがたは、キリストについて、どう思いますか。彼はだれの子ですか。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」

(1) パリサイ人たちへの質問

- ①パリサイ人たちが質問しなくなったので、今度はイエスが質問する。
- ②これは、キリストに関する理解を引き出すための神学的質問である。
- ③キリストはだれの子であるか。
- ④パリサイ人たちは、イエスがメシアだとは信じていなかった。
- ⑤イエスは「私を誰だと言うか」という質問ではなく、一般論的な質問をした。

(2) 回答はすぐに来た。

- ①「ダビデの子です」
- ②当時の人たちは、メシアがダビデの家系から誕生することを知っていた。
- ③しかし、メシアはそれ以上のお方であることを理解していなかった。

2. イエスの質問② (43~45節)

Mat 22:43 イエスは彼らに言われた。「それでは、どうしてダビデは、御霊によって、彼を主と呼び、

Mat 22:44 『主は私の主に言われた。／「わたしがあなたの敵を／あなたの足の下に従わせるまでは、／わたしの右の座に着いていなさい。」』／と言っているのですか。

Mat 22:45 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうして彼はダビデの子なのでしょう。」

(1) 詩110:1からの引用(ダビデの賛歌)

「【主】は、私の主に仰せられる。『わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、

わたしの右の座に着いていよ』

- ①イエスは、ダビデが聖霊によって預言を語っていることを認めている。

- (2) ダビデはキリストを主と呼んでいる。
 - ①なぜ「ダビデの子」である人物を、「私の主」と呼ぶのか。
 - ②最初の「【主】」は「ヤハウエ」である。
 - ③次の「私の主」は、「アドナイ」である。

3. 結末 (46 節)

Mat 22:46 それで、だれもイエスに一言も答えることができなかった。また、その日以来、もはやだれも、イエスにあえて質問をする者はなかった。

- (1) イエスの神性を認めないなら、誰もこの質問に答えることはできない。
 - ①イエスにあえて質問をする者がいなくなった。

結論：

1. 隣人愛について

- (1) 神への愛と隣人愛とは、いわば車の両輪である。
- (2) 1ヨハ4:19~21
「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。神を愛すると言いつつ兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています」
- (3) 神への愛が、隣人愛の土台である。
- (4) 隣人愛は、神への愛の証明である。
- (5) 「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」
 - ①誰でも自己愛を持っていることが前提として語られている。
 - ②自己愛に焦点を合わせて生きることを禁じている。

2. キリストの2性について

- (1) 「あなたがたは、キリストについて、どう思いますか。彼はだれの子ですか」
 - ①この質問は、キリストの2性を教えるためのものである。
 - ②詩110:1は、キリストが神であり、人であることを教えている。
- (2) 「ダビデの子」という言葉は、キリストの人性を表している。
- (3) 「私の主」という言葉は、キリストの神性を表している。

(4) 今もユダヤ人たちは、この点に目が開かれていない。

(例話) 現代のメシアニックジューの信仰にも問題点がある。

(例話) モルモン教、エホバの証人も同じ問題を持っている。

(5) もしパリサイ人たちが「教えられやすい心」を持っていたなら、イエスを信じたことであろう。

(6) 議論に勝てなかった彼らは、ついに暴力に訴えるようになる。

(7) イエスを吟味した4番目の人(ひとりの律法学者)

①彼の心は開かれていた。

②それゆえ、「あなたは神の国から遠くない」と言ってもらえた。

③彼が救われたかどうかは、分からない。救われたと信じたい。